

Seishin Campus

221



おもな記事

第70回 卒業式式辞

ご退職の先生

新卒業生に聞く

グローバルリーダーシップ・プログラム

緒方貞子さん追悼展 他

聖心女子大学が取り組むSDGs

など

2018年度トーチライトプロセッション



聖心女子大学

University of the Sacred Heart, Tokyo

2020年(令和2年)3月14日発行

令和元年度 第70回 卒業式式辞



聖心女子大学長
高祖 敏明
KOSO Toshiaki

社会のどこにあっても 愛の灯を掲げられる人になりなさい

本日ご卒業される皆様、おめでとうございます。ご家族の皆様にもお慶びを申し上げますとともに、本学に賜りましたご支援とご協力に心より御礼申し上げます。

今年の卒業式は第70回ですし、皆さんは2020東京オリンピック・パラリンピックの年に卒業という、巡り合わせのいい方々です。

皆さんが加わる本学の同窓会、宮代会は2020年度に創設70年を祝います。その初代会長は緒方貞子さんでした。緒方さんは渡辺和子さんとともに1回生で、1951年の第1回卒業式では、35名の1回生のうち甲乙つけがたい成績を残した二人が、ともに卒業生代表の謝辞を述べました。それも渡辺さんが日本語、緒方さんが英語での謝辞でした。

初代学長マザー・ブリットが「家で鍋を磨くだけの人になってはなりません。社会のどこにあっても愛の灯を掲げられる人になりなさい」と学生たちに語っていた話をよくご存じでしょう。70回生の皆さんにも、時代はグローバル化、デジタル化、ソーシャル化が進み、AIが実用化されるなど大きく変化していますが、同じ言葉「社会のどこにあっても愛の灯を掲げられる人になりなさい」を贈りたいと思います。

渡辺さんは『置かれた場所で咲きなさい』を書き、「いい出会いをするためには、自分が苦勞して出会いを育てなければならぬ」とか、「命は大切だ、と言われるより、あなたが大切だ、と言われた方が生きてゆける」という言葉も残しています。特に後者は、「すべての命を守るため」というテーマをもって昨秋日本を訪問され、社会の弱い立場に置かれた人々に寄り添って、すべての命の大切さを身をもって示された教皇フランシスコの姿と重なります。

これを特に避難民を相手に実践したのが緒方さんでした。改めて紹介するまでもなく、緒方さんが UNHCR の高等弁務官に就任した1991年は、1989年にベルリンの壁が壊され、冷戦が自由主義陣営の勝利で終結した直後ですが、皮肉にも中東、バルカン半島、アフリカ中央部と、世界各地で地域紛争・民族紛争が頻発した時代でした。緒方さんはそうした現

場に自ら赴いて、難民の声に耳を傾けました。そして「難民の命を救うため」、「すべての人の尊厳を、特に難民の尊厳を守る」ために行動し決断しました。

緒方さんは、「苦しむ人々の命と尊厳を守りたいという熱い思いだけでは、残念ながら人は救えない。政治の力も必要だ」と語り、若い世代に向けて、「専門知識や語学力はもちろん必要ですが、いま、あなたの隣にいる人のためにできることをやる、という努力を積み重ねることを第一に考えてください。そして世界の多様性を学び、経験することが大切です」とエールを送っています。

こうして第1回卒業生二人の生き方に触れてみると、そこにマザー・ブリットの教えが息づいていることに気づきます。しかも「愛の灯を掲げられる人」から、置かれた場で実際に「掲げる人」へと育ち、自らを咲かせた人であったことも。

皆さんの在学中に聖心グローバルプラザが開かれ、聖心生を「リトル緒方」と呼ぶ声もあります。もちろん、皆さんに「難民の命を救うため」に働けというわけではありません。緒方さんも、家庭人、国際政治の研究者や大学の教育者、UNHCR の高等弁務官、JICA の国際協力組織の長など、周囲からの招きや出会いの折々に置かれた場所で務めを果たした結果、「愛の灯を掲げる人」に育っていったのでした。

ですから「置かれた場所」というのも、国や地域、場所、仕事の分野や業種、また人生の段階によっても様々なのです。皆さんも、様々に選んだ道、招かれた場へと巣立っていきます。その「どこにあっても愛の灯を掲げられる人」、「掲げる人」に育っていけますように。皆さんのこれからの歩みを、ともにおられる神様が導いてくださいますようお願いいたします。結びに聖書の言葉を贈ります。

灯をともして灯の下に置くものはない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのようにあなた方の光を人々の前に輝かしなさい。
(マタイ5章15-16節)

(要旨)



ご退職の先生

これまでのご尽力に敬意を表するとともに、心から感謝いたします。
ありがとうございました。



英語文化コミュニケーション学科
マーシャ・クラッカワー 先生
KRAKOWER Marsha

フリーランスとして四半世紀以上メディアの仕事しか経験して来なかったわたくしが大学という組織に「務める」ことになるとは想像もしておりませんでした。そのきっかけを作ったのが、わたくしの生涯のメンター、今は亡き英文科の小堀玲子先生でした。ニューヨークから戻って来てから、ラジオやテレビの英語番組を担当しながら、非常勤として清泉女子大学でジェンダーのクラスを教えたときです。「そのジェンダーを母校の聖心で教えたらいいじゃない」と誘われました。その後、専任になってから、それまで文学と言語学が二つの柱だった英文科にメディア・コミュニケーションを加えて頂きました。英語で書かれたメディア関係の本が図書館に一冊も無い状況から奮闘の毎日が始まったのです。専任になったばかりの夏休みには、アメリカの新学期が始まる前に大学の bookstore に並ぶ Media Studies のテキストブックをスーツケースいっぱい買い集めました。今のようネットで海外から本を注文できる前の時代でした。そして、日進月歩、メディアと私たちはどう向き合っていくかをゼミ生と共に学んで来ました。それも all in English。私がこの大学を卒業した頃は、卒論を指導して下さるメンターはおられましたが、当時は「ゼミ」という制度はございませんでした。なので、メディアのゼミを進めて行くのも初体験でした。私も恐かったけれど、「ゼミ」に入ってくれた10名の学生はもっと恐かったと思いますが、彼女たちの勇気と決断に深く感謝いたします。そしてその後、「怖い」「厳しい」とわかっていながらもゼミに入ってくれた学生たちにも感謝いたします。

学生の頃からくぐってきた大学の正門に別れを告げる日がやって来てしまいました。この大学の卒業生であることと、この大学の教員であったことを今後とも誇りに思い続ける事でしょう。



史学科
小泉 徹 先生
KOIZUMI Toru

聖心女子大学には18年間お世話になりました。着任したときに「3度目の職場だけれどもたぶん最後までお世話になるだろう」とどこかに書きましたが、その通りになりました。前の2つの職場も居心地が良かったのですが、それらとくらべても聖心女子大の居心地の良さは格別でした。悪く言えば甘やかされて太り過ぎた猫のように、すっかりだめになってしまったのではないかと思います（そういえば以前、南門の階段には甘やかされて太り過ぎた野良猫がいました。学生諸君が与える上等な食べ物を食べ残したまま、お腹を出してゴロンと昼寝していました。副手さんの話では、20年以上元気に生きているとのことでした）。猫の飼い主は困ったことになったと思っているかもしれませんが、猫自身には困る理由がまったくありません。たぶん聖心女子大の良さは、この寛容さにあるのだと思います。この恵まれた環境は、思う存分能力を発揮するのにふさわしい場所ですが、なかなか思い通りに行かないのが人生の常です。せめてこの先、ロンドンのパディントン地下鉄駅のティドウルズ（ネットでお調べください）のように有名になって、聖心女子大学の名前を世に広めることができれば、と思っています。



心理学科
川上 清文 先生
KAWAKAMI Kiyobumi

子どもの頃病弱だった私が、41年無事勤務できたのは、教職員・シスター・学生や卒業生の皆さんの様々な面からのお力添えのお陰で、心から感謝しています。書きたいことはたくさんありますが、2点に絞ります。

かつての同僚、往住彰文先生の詩的な文が1992年発行の『聖心コミュニケーションNo.10』に残されています。そこに心理学研究室の（中型）コンピュータが世界とつながっていることが、述べられています。まだインターネットがほとんど知られていない時の話です。先生がおられる天国とのメールはできないので確認できず、誤認があるかもしれませんが、聖心は日本でインターネットを初期から使えた、数少ない大学のひとつなのです。その後一時私情協のネットを使い、さらに聖心独自のアドレスを確保しました。

私は1990年に最初のサバティカルをいただきました。その時米国N J州の研究所に滞在したのですが、米国に滞在する日本人の赤ちゃんの協力が必要になりました。苦境を助けて下さったのがNY宮代会の方々と、世界に広がる聖心の底力を痛感しました。

プロ野球の長嶋茂雄の引退試合を、私は後楽園球場で観ました。最後にその有名なセリフを借りて。

「聖心女子大学は永久に不滅です！」



心理学科
柴田 玲子 先生
SHIBATA Reiko

正門から構内に入ると、桜並木が迎えてくれ、四季折々の顔を見せてくれます。パレスの雨戸の開け閉めは大変そうと思いつつも、古きよきものを大事にしていく精神が大好きでした。伝統はお金では買えないものです。そして、寮は新しくなり、4号館もでき、新しいことにチャレンジしていく精神も大切です。古さと新しさを大事にするこの大学で、教員として12年間、その前の修士や博士の10年間を入れると4半世紀近くわたって過ごすことができ、人生がより充実したものになりました。

卒論や修論には苦労しましたが、最後に学生たちの充実感のある笑顔を見ると、そんな苦労は吹き飛びます。臨床家になりたい学生とは大学院や心理教育相談所においてともに過ごす時間も多く、その関りは自然と深くなりました。臨床において、「自信」と「謙虚さ」を同時に持っていることの重要性を伝えてきました。そんな彼女たちが社会で頑張っている姿を見ることはとてもうれしいことです。

本学の有能な職員の方々、委員会や入試などを通じて知り合えたすてきな先生たち、そして同僚にも恵まれ、感謝の気持ちでいっぱいです。聖心女子大学が伝統を失わずさらに発展していくことを切に願っています。

新卒業生に聞く

新卒業生のみなさんに下記の項目についてお聞きしました。
氏名の下は在学中所属していた課外活動団体名等です。

- 1 大学生生活の思い出 2 聖心女子大学の魅力は？ 3 後輩にひとこと 4 卒業後、あなたは？



英語英文学科
多賀 千尋
TAGA Chihiro

所属課外活動団体
日本舞踊愛好会
広山流華道同好会



日本語日本文学科
海老澤 夏未
EBISAWA Natsumi

所属課外活動団体
聖心祭実行委員会
(ラッフルセクション)



哲学科
大下 華穂
OSHITA Kaho

所属課外活動団体
なし

1 勉学に励んだほか、日本舞踊や華道などの伝統文化に触れて過ごせたことです。また、これまで続けてきたスキーマの成績を学長賞として評価して頂いたことは、大変光栄でした。

2 教職員の方々との距離も近く、「聖心はひとつの家庭です」という言葉を実感できる温かな校風です。また、正門やパレスなどの伝統ある建造物も聖心の魅力だと思います。

3 どんな小さなことにも疑問を持ち、納得のゆくまで調べてみて下さい。探究心は知識や思考に奥行きを出し、磨きをかけ、見える景色を大きく変えてくれます。知識は財産です。

4 都市銀行の国際部門勤務が内定致しております。留学経験が無い中、国際部門職につくことができたのは英文学科での学びの賜物です。これからも学びの姿勢を大切に参ります。

1 全力で挑戦し続けた4年間でした。学内では聖心祭実行委員の活動や日本語教員課程での教育実習、学外ではアルバイトや他大学の混声合唱団での活動を行うなど学内外で様々な活動を積極的に行いました。全ての経験が自身の成長に繋がっています。

2 教職員の方々から私たちにじっくり向き合ってください点です。専門的な学問に関することはもちろんですが、学生生活や進路の相談にも丁寧に対応して下さいます。

3 興味があること、好きな事に全力で取り組んでください。全力で頑張った経験が、自分の自信になります。ぜひ悔いのない、充実した学生生活を送ってください。

4 病院内の総合職として、院内学級での日本語ボランティアの活動を行いつつ、事務員としても経験を積んでいきます。日本語教員課程で学んだ教授法のスキルも積極的に活かし、活動を続けていきたいです。

1 色々なことに挑戦し、多くのことを吸収した4年間でした。哲学科での学びやドイツへの語学研修、インドでのボランティア活動などを通じて、様々な文化や考え方を持つ人々と出会い、世界に対する視野を大きく広げることができました。

2 人の温かさに触れられるところです。教職員の方々やシスター方、友人たちにはあらゆる場面で助けていただき、前へ進む勇気を与えてもらいました。

3 好きなことに好きなだけ、全力で挑戦してみてください。好きをとことん追求した先には、きっと素敵な何かが見えてくると思います。

4 アルバイト先の会社の飲食部門の正社員として就職致します。業務内容としてはカフェでの調理、接客などを行います。新店舗の立ち上げの一員として、日々新たな事へ挑戦していきたいと思っております。



史学科
大藪 茉奈
OYABU Mana

所属課外活動団体
聖歌隊

1 学科説明会や聖歌隊での役員など、この4年間は人前に立つ機会が多かったように思います。内気だった私が積極性を身につけることが出来たのは、間違いなくこれらの経験のおかげです。

2 学科専攻を2年次に選ぶ聖心特有のカリキュラムは、興味を学問に昇華しやすい環境を形成していると思います。見聞を広め、成長にも繋がるリベラル・アーツの伝統は、聖心女子大学の数ある魅力のうちの一つです。

3 この大学生活をあとから振り返って、楽しかったと笑うことができたなら、頑張ったと自分を褒めることができたなら、それだけで価値があります。のちの自分に誇れるような楽しい大学生活を送ってください。

4 卒業後は、國學院大學大学院に進学します。学芸員という夢を目指し、邁進していく所存です。



人間関係学科
嶋田 凜
SHIMADA Rin

所属課外活動団体
ラクロス部

1 ラクロス部での4年間はかけがえのない大切な思い出です。みんなで一つの目標を目指し頑張ること、部員同士切磋琢磨することで、なにより私自身がとても成長できました。感謝しかありません。

2 伝統を大切にしており、聖心生としてのプライドと振る舞いが身に付いた事です。またゼミでは人数が少ない大学だからこそ、一人ひとりに対し親身になってくださるところが魅力だと思います。

3 今からでも間に合います。大学生活を「後悔のない4年間」にしてください。大学生は自分の選択でなんでもできます。勉強、サークル、部活、アルバイトを是非4年間で誇りあるものにしてください。

4 航空関係の会社に就職予定です。大学生活で多くのことを経験し、沢山の方々に助けていただきました。これからも常に感謝と初心を忘れず働きたいと思っています。



国際交流学科
井原 可南子
IHARA Kanako

所属課外活動団体
アナウンス研究会

1 自分の興味関心を十分に学べた4年間ででした。アナウンス研究会では幹部として責任感を持って活動し、2度の海外での研修を通して幅広い知識を得ることができました。

2 少人数だからこそ専門的な指導を受けられる点と、恵まれた学習環境の中で、伝統を重んじながらも時代に合わせた学びを受けられる点が魅力的だと思います。

3 大学の4年間は何にでも挑戦できる貴重な時間です。自分の夢は何なのかを考える上で、学業や学生時代の友人との交流は大きな財産となります。大切にしてくださいね。

4 日本経済団体連合会(経団連)に就職いたします。聖心での学びで得た知識を十分に発揮し、社会に貢献できるよう常に学び続ける姿勢を大切に精進していきたいと思っています。



心理学科
明石 美優
AKASHI Miyu

所属課外活動団体
聖心祭実行委員会
(公演セクション)

1 マイノリティ教育における絵本の教材活用について、保育園で実験を行い卒論を執筆しました。先生ではなく自分が決めたテーマに取り組む日々は、悩みや壁も多い分充実していました。

2 愛溢れる温かい学校でした。ゼミや語学の先生はもちろん、1コマのみ授業を受けた先生や、副手やTAの方など、全ての方が学生1人ひとりに丁寧に向き合ってください。

3 大学生活は自由で何でも出来るからこそ、自分を律することが大切です。勉強、アルバイト、課外活動、就職活動、プライベートなど、バランスを保って悔いなく過ごして下さい。

4 フランスの証券会社に就職します。東京オフィス勤務ですが、多種多様なバックグラウンドを持つ人が集う社内で、聖心で身に着けた国際感覚や協調性を糧とし成長してまいります。



教育学科教育学専攻
宮田 晴菜
MIYATA Haruna

所属課外活動団体
聖心祭実行委員会
(広報セクション)

1 私にとって教育学科で過ごした3年間は、とても実りあるものとなりました。教育学科では教育のみならず環境問題や貧困問題を学ぶことができ、人として、また女性として学ぶことが多くありました。

2 リベラルアーツ教育で、1年次の頃から学科を決めず幅広い分野の授業が受講できる場所だと思います。そうすることで、2年次から自分がなにを学びたいか明確にすることができました。

3 今しかできないことを見つけてください。大学生活をどう送るかで将来が決まると思います。それと同時に友人や先生、両親など周りの方々に大切にしてください。今私がここにいることは、周りの支えがあってこそだと思うからです。

4 航空会社に就職します。大学で学んだことを生かし、多くの文化や背景を持った方々と関わりながら、日々成長していけるように精進して参ります。



教育学科
初等教育学専攻
柳澤 郁
YANAGISAWA Fumi

所属課外活動団体
なし

1 この4年間は、自分のちょっとした変化を積み重ねてきた日々でした。多くの出会いや別れがあり、様々な経験ができました。人は変わります。このことに気づけたことが、私の大学生活の中では大きな意味もっています。

2 圧倒的な友情の深まりは、少人数である本学の魅力です。教育学科には目標の実現に向け切磋琢磨でき、挫けそうときに支え合える仲間がたくさんいます。尊敬できる友人に必ず出会うことができます。

3 他人と自分を比べないでください。本学には、自分のもつ魅力を最大限引き出してくれる先生方がいらつしゃいますし、その魅力を受け入れてくれる友人とも出会えます。自分らしさを忘れずに、アイデンティティを確立していく4年間にしてください。

4 本学の大学院へ進学します。現代の子どものことや教育のことについて、より学びを深めていきたいと思っています。素晴らしい先生方のご指導のもと、自分のもっている課題と真摯に向き合えるよう精進してまいります。

グローバルリーダーシップ・プログラム

座学から実学へ、グローバルマインドを培う学び

Program in Global Leadership Development gives us the confidence and values inherent in the Sacred Heart Spirit.



2年間の学び
(2年次開始)

全学科対象

主体的で
体験的な学び

英語プログラム

インターンシップ



新しい時代のリーダーに：
国際社会のなかで発揮できる力の育成を目指して

奥切 恵
OKUGIRI Megumi
国際交流学科准教授

グローバルリーダーシップ・プログラム：Program in Global Leadership Developmentでは、現代に世界が直面する難民問題や気候変動といった Sustainable Development Goalsをはじめ、様々な問題にも対応できるリーダーシップの資質や能力の習得を目指しています。将来、教育機関、政府機関、NGO、各種法人など、さまざまな組織において、プログラムで学んだチームワークとコミュニケーション能力をいかしてリーダーシップを発揮することが期待されます。

2年目には長期インターンシップにも参

加しますが、英語を使いながら学んだチームワークスキルを生かし、責任感を養います。プログラム初年度の学生は、自分で立ち上げたイベントプロジェクトを最後の仕上げに、2年間のプログラムを修了します。学生の皆さんの顔つきも当初よりリーダーらしくなり、自分のやれることを見つけ、小さなことでもやりがいを感じ、自分がグローバル社会に参加していることを実感できた様子です。ダイバーシティーを学び意識が変わっただけで、これほど成長してくれたのだと嬉しく思います。



特別講義

チームワークを学ぶワークショップ

特別講義として Lumina Learning Ltd.®(※)のアプリの体験を行いました。個々人の性格分析を行い、互いに性格や行動傾向を学ぶことでその後のグループ活動に生かすことができました。

※心理測定ツール、ルミナスパークプロフィールはコミュニケーション、チームワーク、リーダーシップの傾向や状態を測定し、それらを改善することを目的とした心理プロフィールです。



特別講義

アジア学院

農作業やワークショップを通じて、「サーバントリーダーシップ」について深く考える機会を得ました。先頭に立ち人を率いるという従来型のリーダー像ではなく、全員がリーダーとしての自覚を持ち、そして包括的なリーダーシップを有することの重要性を学びました。



【アジア学院】

途上国の農村開発に携わる専門職員を養成する国際機関として発足。共に分かち合う生き方を目指して、農村指導者の養成と訓練を行っています。

主としてアジア、アフリカ、太平洋地域の農村共同体に生き、働いている男女の指導者たちが、毎年職員やアジア学院に集うその他の人々と共に学びの共同体を形成します。

インターンシップ

学生としての学びとは180度異なるインターンシップ経験を一同で行いました。様々な業種に触れることができ、組織の一員として「働く」という意識の高めました。派遣先は人事コンサルティング会社や、発展途上国を舞台にしたアパレルブランド、また国際 NGO 団体で、広報業務、イベント企画やクラウドファンディングからプレゼンテーションに至るまで活動は多岐に渡ります。



活動報告会



2年間の集大成として、在校生向けに活動報告会を行いました。観客の方々にも参加いただく活発な報告会にするべく、メンバー全員で10回にも上るミーティングを重ねた成果もあって、アンケートでも好評を頂くなど、報告会の成功を実感することができました。

2年間の Program in Global Leadership Development の学びから



国際交流学科3年
梅田 ゆり子
UMEDA Yuriko

本学の PGLD での2年間の経験を通じ、グローバル化が進む国際社会において、どのようにリーダーシップを発揮していくのか、実践的な学びを得ることができました。なかでも、インターンシップを行っていた Lumina Learning Japan では心理解析プログラムの成り立ちから使用実践に至るまで、心理的傾向を自ら学び、そして顧客にサービスを提供するという異なる2つの側面からリーダーシップについての考えを深める機会に恵まれました。そこでの気付きは、運営として参画している G20 Youth Japan 会議の日本開催や、カザフスタンでの国際学生会議などの場で、異なるバックグラウンドを有する人々と協力し、より良いものを作っていく作業に大いに影響を与え、そして学びを深める機会を私に与えてくれました。

国際交流学科3年
浦上 流風
URAKAMI Ruka



活動報告会にて



PGLD での様々な活動を通して、異なる価値観に触れ、自身の可能性を広げることができました。そして、PGLD の学生の高い志に後押しされ、英語に対する自信もつけることができました。仲間との英語でのディスカッションやプレゼンテーションは私の成長の糧となっています。ここで得た自信は同時履修している日本語教員過程にも活かしています。異なる国の人々に日本語を教えるといううえで、PGLD で培ったリーダーシップ力や人間力、英語力を存分に発揮しています。PGLD を通して、自分の可能性に制限を掛けず、何事にも自信を持って取り組めるようになりました。PGLD に携わっていただいた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

追悼展 緒方 貞子さんの言葉と聖心

入場無料

国連難民高等弁務官やJICA理事長として活躍された
緒方 貞子さん（本学第1回生）の次世代へのメッセージ



学生時代の学びや、国連で活躍される中で積み重ねられた言葉の数々…「連帯感のある世界をどうやってつくったらいいか、これが私どもに与えられた一番大きな課題ではないかと思います。（聖心会創立200年記念講演会）」等、緒方さんからのメッセージを元 JICA地球ひろばの地である聖心女子大学4号館に皆様と共有する場をご用意いたしました。

期間

2019年12月14日(土)～2020年4月29日(水)

場所

聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ1階
東京メトロ日比谷線広尾駅4番出口から徒歩1分

開館時間

月～金 10:00am～6:00pm
土 11:00am～4:00pm
休館日：日・祝日

※4月29日は祝日ですが、最終日のため開館いたします。

シリーズ
気候変動
第2弾

女性と社会的弱者にとっての気候変動

「気候変動」という同一テーマの元に4回に分けて異なるトピックに焦点を当て多角的にこの地球規模課題へアプローチします。

第一弾は、Tシャツなど、私たちにとって身近なファッションがいかんして気候変動と関わっているのかを「ファッション×気候変動」展で表しました。

現在展示中の第二弾（2019年9月～2020年4月）は「女性と社会的弱者にとっての気候変動」。気候変動によって途上国の女性や子どもはどのような影響を受けているのか、さらにキリバスやネパールという国々で暮らす社会的弱者と呼ばれる人々に何が起きているのかを明らかにします。



Zone A



Zone B



Zone C

Zone A : 気候変動と私たちの生活
Zone B : いまなにが起きているの？
Zone C : 女性と社会的弱者にとっての気候変動

場所

聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ1階

開館時間

月～金 10:00am～6:00pm
土 11:00am～4:00pm
休館日：日・祝日

受賞報告

令和元年度聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞と聖心女子大学学長賞の受賞者および団体が決まりました。受賞者の言葉は、次号の聖心キャンパス第222号に掲載予定です。



聖心会創立者
聖マグダレナ・ソフィア・バラ
(1779-1865)

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部学生を褒賞するものです。令和元年度受賞者は、次の3名です。

英語英文学科 八木 美芳
YAGI Mihou
国際交流学科 岡田 英里
OKADA Eri
教育学科 烏丸 亜佳梨
(初等教育専攻) TORIMARU Akari

聖心女子大学学長賞

聖心女子大学学長賞は、学術研究活動、課外活動、社会活動等で特に顕著な成果を挙げた学生または学生団体を褒賞するものです。令和元年度受賞者および団体は、次のとおりです。

自動車部
M.S.S.S. (Madeleine Sophie Social Services)
Earth in Mind
JASMIN V (ファイブ) 一人間関係学科3年 有志5名

グローバル教育環境整備募金について

ご寄付・ご支援のお願い

募集寄付金及び使途について

新たなグローバル戦略に基づく教育環境整備のために

1. グローバル教育の新たな拠点としての4号館（旧 JICA 跡地）の整備
2. 聖心女子大学の教育の伝統を象徴する マリアン・ホールの大規模改修
3. 国際性を重視した新学寮の建設

募集期間〈継続募集中〉

2017年1月～2021年12月末

キャンパス整備計画の実現にあたっては、総額約45億円の資金を必要といたします。内、35億円は自己資金でまかさないでしたが、残りの10億円につきましてご寄付をお願い申し上げます。

目標金額

10億円

ご寄付の状況 総額：254,890,582円（2019年12月末まで）

寄付の手続きについて

WEB

下記 URL にアクセスして、グローバル教育環境整備募金のページをお読みになってお手続きください。寄付金の払込み方法は、申込画面よりクレジット決済・コンビニ決済・銀行振込を選択できます。
<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/contribution/>（「聖心女子大学 寄付金」で検索してください）

郵送

郵送での申込みを希望される方は、申込書、振込用紙等をお送りいたしますので、下記問い合わせ先まで送付先をお知らせください。



お問い合わせ先 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1
聖心女子大学管理部財務課／電話：03-3407-5811（代表）
FAX：03-3407-5856
E-mail：e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp

税法上の優遇措置について
聖心女子大学への寄付金は、税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。
●所得税 ●住民税 ●相続税 ●法人税（全額損金への算入）

グローバル教育環境整備募金につきまして、ご寄付をいただいた方々のご芳名を掲載し、深く感謝申し上げます。

なお、ご芳名は掲載に同意いただいた方のみとなります。また金額はこれまでのご寄付累計額を記載しています。

■5,269,716円
聖心女子大学同窓会
宮代会

■1,500,000円
公益財団法人
富山第一銀行奨学財団

■500,000円
園田 八重子

■300,000円
氏家 淑子

■200,000円
ヤング吉原 麻里子

■100,000円
宮代会中国西支部
菊地 八重子
堀口 裕香
宮代会19回生同窓会

■50,000円
小林みこころ会35回生
松坂 容淑子

■30,000円
岡田 聡子
永池 紀子
原 明子

■ご芳名のみ
泉 千恵
内田 佳子
大田 裕美子
大塚 美保
緒方 身智子
亀岡 潤子
北河 朋奈
高祖 敏明
佐々木 彰子
佐藤 豊子
シスター里見を偲ぶ会
清水 真理子
高橋 宏予
武内 圭子
武永 蘭

手納 美枝
豊田 菜南子
内藤 由美子
服部 悦子
菱刈 禮子
船山 博之、節子
宮代会静岡支部
宮代会チャリティー
コンサート設置募金箱
宮代祭設置募金箱
山田 庄太郎
弓崎 雅美
若林 雅子

■匿名 20件

寄付者ご芳名（2019年6月～12月）敬称略

学生の活躍

第19回 カトリック女子大学総合スポーツ競技大会報告 総合優勝

12月14日(土)、15日(日)の2日間にわたり、第19回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が京都ノートルダム女子大学にて開催されました。本大会は、スポーツを通してカトリック女子大学の親交を図るために毎年開催されています。参加大学は、京都ノートルダム女子大学、ノートルダム清心女子大学、白百合女子大学、清泉女子大学、本学の5大学で、バスケットボール、バレーボール、硬式テニス、バドミントンの4競技の勝敗を競います。次年度は、2020年12月12日(土)本学にて開催されます。



バスケットボール部部长
木村 光里
KIMURA Hikari

昨年度は準優勝という結果に終わったので、優勝に向けてより一層力を入る大会でした。この大会のために、一人一人が努力し、厳しい練習に一生懸命励みました。その結果、一点差という僅差の試合で勝ち、優勝することができました。同時に、今後の課題も見つけることができました。

サポート下さった先生方、スタッフ、OG、全ての皆様に感謝申し上げます。今回の大会の優勝に向け、今後とも部員一同精進して参ります。



硬式庭球部部长
厚見 映里
ATSUMI Eri

昨年12連覇を達成し、このまま連覇を挙げるべくチーム一丸となって練習に励んで参りました。しかし、今回13連覇を逃し、大変悔しい結果となってしまいました。この悔しさを決して忘れることなく、来年度連覇の再スタートがきれますよう皆でまた頑張っていきたいと思っております。

今大会に於いて、開場校であった京都ノートルダム女子大学をはじめ運営に携わってくださった全ての関係者の皆様に部員一同感謝申し上げます。来年度は本学にて行われますが、より一層大会を盛り上げられまよう精進して参ります。

「マーケティング戦略立案コンテスト」 ANA 部門で 2 位

11月12日、「マーケティング戦略立案コンテスト『EDGE』2019」の決勝プレゼン大会に、人間関係学科3年の5名(チーム名「Jasmin V (ジャスミン・ファイブ)」)が出場しました。このコンテストは全国の大学・大学院の学生がチームを編成し、有名企業の提起する課題に挑むというもので、2017年から行われています。

ANA(全日本空輸株式会社)の「若者に、旅にお金・時間をより多くふりむけてもらうために、ANAがすべきことは？」の課題に取り組み、最終的に、この部門に参加した41チーム中、2位の成績を収めることができました。学生の一人は「1位になれず残念だったが、超一流企業のマーケティング担当の方々といろいろな意見交換ができて、とても勉強になった。大学生活の中でも刺激的なイベントの一つになった」と語っていました。



SHRET × UNIQLO 「全商品リサイクル活動」を実施

本学の学生団体SHRETは、UNIQLOブランドを販売しているファーストリテイリング社が、UNHCRと連携し、衣服を回収して世界各地の難民など、服を必要としている人々に届けるCSRプロジェクト、「全商品リサイクル活動」に賛同し、協力しています。

古着回収を通じて難民支援を行うのみならず、学内における難民問題啓発を目的にこの活動を行っています。今回は、合計84着が集まりました。



SHRET: 難民が中高等教育を受ける重要性を訴えていこうというビジョンのもと、2002年に発足した難民支援団体。国連やNPO法人と協力し、学内外で活動を広げています。

成人式ミサが行われました

Thursday
January

9

1月9日に「成人式ミサ」が行われました。神と隣人への愛を説いた聖書箇所が朗読され、11人の新成人の学生たちは、神父様から祝福を受け、お祝いのカードとプレゼントをいただきました。新成人の皆様のために神様の助けと導きをお祈りしました。

マグダレナ・ソフィアセンター
カトリックルーム



他大学との協定

リベラル・アーツ大学の本学では、
広い視野や価値観を身につけるため、
他大学との協定による「単位互換制度」
を設けています。

新たに交流学生制度（単位互換制度）を2020年4月より開始

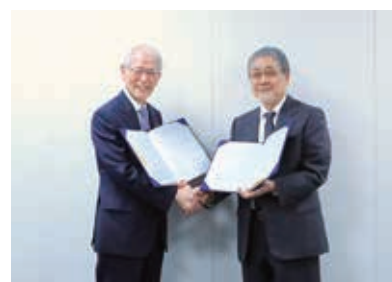
聖心女子大学
×
日本赤十字看護大学



2019年11月11日にて、聖心女子大学にて「連携・協力に関する基本協定」締結式を執り行いました。

両大学のメインキャンパスは渋谷区広尾に隣接しており、単位互換にとどまらず学生の様々な活動、施設の相互利用等今後の連携・協力が期待されます。

聖心女子大学
×
東京音楽大学



2020年1月29日に、本学と東京音楽大学が「学生交流に関する協定」を締結しました。この協定は、両校が科目を提供することにより、相互に教育内容の充実を図り、交流を深め、学生に対して多様な価値観に基づく学修機会を提供することを目的としています。

これにより交流学生が、2020年4月以降双方で開講される科目を履修できることになり、修得した単位はそれぞれの大学における単位として認定されます。

宮代会だより

新卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。1951年に発足した宮代会は、皆さまを記念すべき第70回生としてお迎えいたします。

宮代会は、終身会費を納入してご入会いただいた聖心女子大学同窓会です。現在約2万8千人の会員を抱え、国内の姉妹校、8同窓会と共に日本聖心同窓会（JASH）のメンバーです。国内には13支部、海外にも5支部あり、世界聖心同窓会（AMASC）の一員として海外にも繋がっています。

宮代会は「会員の親睦」「母校への協力」「社会貢献」を三つの柱として、宮代会館を拠点として活動しております。

会館は、色々な分野のお稽古を通し会員の親睦の場として、各OG会を通じて世代を超えた交流の場としてご利用いただいております。

母校への協力としては在生対象の「宮代会特別奨学金」（学業優秀な学部生3名）、「宮代会奨学金」（学業優秀な大学院生1名に2年間）、「エリザベス・ブリット基金奨学金」（経済的支援を必要とする優秀な学部生2名）、また卒業後再び学びたい宮代会会員を支援する「さくら奨学金」（公募2名）を給付しています。

社会貢献としては、会員から寄せられた古着や古切手の整理運用、点訳、拡大写本・製本、縫製などの奉仕活動を行っています。

これらの活動報告は毎年1月発行の同窓会誌「宮代」、4月発行の「宮代会ニュース」に記載しておりますのでお手元が届きましたらご覧ください。

また、2020年4月より宮代会のホームページを開設いたします。合わせてこちらもご覧いただき、どうぞ宮代会活動にご参加、ご協力くださいませ。

Information

授業時間及び学年暦を変更「100分×半期14回」に

聖心女子大学は、2020年4月より授業時間/回数を「100分×半期14回」とします。休日（祝日）の授業実施の減少、各種実習/海外語学研修/ボランティア活動/インターンシップ等の正課/正課外活動が活発に行なわれる休業期間の確保等を目的にしたものです。2020年度においては、「東京2020オリンピック競技大会」開会式の前日までに、前期授業および定期試験を終了することといたしました。

時間割	2019年度まで		2020年度より	
1限	9:00～10:30	90分	9:00～10:40	100分
2限	10:40～12:10	90分	10:50～12:30	100分
昼休み	12:10～13:30	80分	12:30～13:30	60分
3限	13:30～15:00	90分	13:30～15:10	100分
4限	15:10～16:40	90分	15:20～17:00	100分
5限	16:50～18:20	90分	17:10～18:50	100分

制服について

学生の要望を踏まえて、2020年度より、制服にパンツスーツを導入するとともにデザインの変更をいたします。



聖心女子大学が取り組む SDGs

- SDGs スタディツアー in Namibia



ナミブ砂漠にて

海外スタディツアー報告～ナミブ砂漠で究極のサステナビリティを体験～

発展途上国でのスタディツアーを始めて13年目になります。2019年度も教育学科の開講科目「発展途上国における教育問題1」の一環として、8月31日から10日間、アフリカ大陸南西部のナミビア共和国を13人の学生・研究生及び水島尚喜先生と訪れました。なぜナミビアかというと、国連が2030年までの10年間推進していくESD（持続可能な開発のための教育）の優良実践が同国のナミブ砂漠で展開されているからです。

学生たちは「ユネスコ／日本ESD賞」を受賞したNaDEET（ナミブ砂漠環境教育トラスト）が営む環境教育センターに滞在し、「究極のサステナビリティ」を体験しました。滞在期間中はどの学生にとっても自分の人生で最も地球に負荷をかけない生活を送ったと言えるでしょう。自然エネルギー（太陽光による電気）のみに頼り、飲料水もシャワーも地下水を活用し、ゴミをほとんど出さない生活を体験し、自らが使用した電気と水の量は東京の生活の15分の1程度であることが分かりました。帰途に寄った街のホテルで熱いシャワーを浴びた後、「砂漠での心地よい生活に戻りたい！」と言った学生の言葉が忘れられません。

日に日に大自然の営みに素直になっていく学生たちの変わり様は誰の目にも明らかでした。砂漠での生活の初日に虫を見ると奇声をあげていた学生も、いつの間にか虫を手にとって愛おむようになり、砂丘で見つけたゼブラやオリックスの乾いた糞を手にとって観察するほどの変容ぶりでした。

NaDEETを後にした学生たちは砂漠に自分でテントを張り、オレンジ色に輝くナミブ砂漠に身を置き、砂漠はなぜ美しいのかについて夜な夜な話し合っていました。変容した学生たちが東京での生活にどうチャレンジしていくのか — 今後は楽しみです。

※ナミビア・スタディツアー報告については以下のURLからご覧ください。
<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/academics/faculty/study-tour>



永田 佳之
NAGATA Yoshiyuki
教育学科教授

